

グループ	学校教育実践探究	担当 教員	藤井啓之 松下明生 丸山真司 今井理恵 (国語新任)
テーマ	「ともにつながり、ともに生きる」学校教育実践の探究		
ゼミナール概要			
キーワード：生活指導、学級づくり、授業づくり、DE&I、インクルーシブ教育、教科教育			
<p>【特徴】</p> <p>多様な子どもたちを理解することや学校教育におけるさまざまな教育病理（いじめ、不登校、暴力等）・発達障害をはじめとする特別な教育的ニーズに対して、学校教育はどのように応答しうるのかを考えます。このグループでは、専門性の学び(探究)を深化、発展させていくために、各教員のもとでのゼミ活動が中心になりますが、学生の専門的探究の裾野を広げるために、学校教育実践探究グループの各専門家の知見を得ながら、グループに所属する学生たちがともに学び合い、刺激し合うグループ体制をつくります。</p> <p>【進め方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各ゼミ活動を中心に進めていきますが、同時に1年間をかけてグループ全体での学びと交流を節目に組み込みます。 前期は、グループ全体で担当教員(専門家)による「ともにつながり、ともに生きる」学校教育実践の探究（「インクルーシブ教育」「DE&I」「福祉マインドを貫く教育実践」）をテーマにした研究方法論の話を組み入れます。 前期・後期の中間にゼミ活動報告・交流会を行います。 前期最終日は「後期ゼミへの展望交流」、後期最終日はグループ全体で「3年ゼミのまとめ」交流を行います。 専門演習Ⅱ（4年）における卒業研究では、テーマ発表—中間発表—最終発表をグループ全体で行います。 			
担当教員の紹介			
<p><学校教育クラス></p> <p>藤井啓之：主として教科外領域（生活指導、学級づくり、行事など）において、子どもの発達課題を踏まえつつ、DE&I（Diversity, Equity and Inclusion）を追求する指導について、教育実践に基づきながら学びます。（テーマ的には、いじめ、暴力、不登校、子どもの権利など）</p> <p>今井理恵：発達障害児など、多様な子どもたちの特別な教育的ニーズに対する認識を深め、インクルーシブ教育について考えます。一人ひとりが排除されることなく、お互いの差異を認め合い、他者と共同的にかかわり合い、学び合う教育実践のあり方について一緒に検討しましょう。基本的には、ゼミ生たちが主体的に研究テーマを設定し、文献講読、資料分析、教材づくり、ゼミ新聞づくりなどを行いながら研究を行います。</p> <p><教科教育クラス></p> <p>松下明生：学校における教育実践の中で、造形表現や美術に関する学びと経験を積み、図画工作という教科を学ぶのではなく、教員に必要とされる芸術学的な指導スキルとして「鑑賞・創造・制作」体験をします。学外（小学校や施設）に出かけて幼児から高齢者まで、親子参加の行事など企画して開催運営をします。子どもから大人の障害者と一緒に遊び、支援に必要な何かを実体験の中から学びます。特別支援学校や学級の担任として必要なノウハウ、支援具の制作、小中学校で行う学級開きの準備や教室・廊下の展示装飾、学芸会や運動会などの行事で何が必要なのか、算数や社会、理科などの授業に関わる制作物など、学生さんのニーズに合わせて活動を行います。</p> <p>丸山真司：どうして「体育嫌い」になってしまうのだろう。それは子ども自身の責任ではありません。教師の指導の責任です。運動の苦手な子も得意な子も、障害を抱えた子どももいっしょに学び合って楽しくてワクワクするような体育の授業をつくるのが教師の役目です。どの子も切り捨てないワクワクする体育をつくるために本ゼミは、「体育は何を教え学ぶ教科か」、「多様な背景をもつ子どもたちがともに学び合う体育」「福祉マインドを貫く体育」をテーマに実践と理論を行き来しながらゼミというチームでともに探究をしていきたいと思っています。また、教師になったときに必要な基礎的な力（例えば、必要な情報を収集し整理する力、目の前のリアルな実態を分析し論理的に考え記述する力、討論・対話する力）も身につけていきたいと思っています。</p> <p>※他に、国語担当の新任の先生が加わる予定です。</p>			